特集 綾瀬の教育

# 研究推進校の指定などさまざまな活動を実践

市教育委員会

## 確かな学力の育成のために

問教育指導課☎70・5660

市内の小・中学校では、学力向上のために学校ごとに研究テーマを設定し、校内研究に取り組んでいます。また、地域や児童・生徒の実態に応じ、さまざまな教育活動を実践しています。

### 思考力・判断力・表現力の育成

各学校では学習指導要領にのっとり、「生きる力」を育むという理念の下、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力という、知・徳・体をバランス良く育てていくことを目指して教育活動が行われています。

学習指導要領では、知識や技能を習得し、それを活用した思考力・判断力・表現力などの育成や学習意欲・学習習慣の確立を重視しています。

主な改善の方向性は、言語活動の充実、道徳教育の充実、体験学習、小学校段階における外国語活動の充実などです。

### 校内研究で授業改善

市内全ての小・中学校では、子どもたちの確かな学力の向上を図るため、より分かりやすい授業を行うとともに、教科指導方法の工夫改善を行う校内研究に積極的に取り組んでいます。

まず、全ての教員が年1回以上の公開授業を行い、その後は研究協議を実施するなど、授業改善に取り組んでいます。

市教育委員会では、校内研究の充実を図るため、専門的知識と豊富な経験のある大学教授などを指導者として各学校に派遣し、授業改善に役立てています。

また、各学校と協議してテーマを設定し、先導的な校内研究も進めています。今年度は落合小学校、早園小学校、北の台中学校を市の研究推進校に指定しました。

落合小学校では「豊かな心でよりよく生きる子をめざして」をテーマに、道徳の時間を中心としながら、学校の教育活動全体を通して豊かな心の育成に努めています。自己を見つめ、よりよい生き方を互いに学び合う道徳の授業を実践しています。研究の成果を2月3日に発表します。

早園小学校では「学ぶ力を育てる授業づくりをめざして」を研究テーマに、「聴いて　考えて　つなぐ子」を目指す子どもの姿として、言語活動を軸とした授業改善に取り組んでいます。研究成果の発表は、来年度の予定です。

北の台中学校では「主体的・創造的に生きる生徒の育成」をテーマに、「聴く力」「考える力」「広げる力」をキーワードに研究しました。聞き取った情報を基に自分で考え、学んだことを振り返ったり、伝え合ったりする学習により、自らの学習課題やその解決方策を見つけ、学習意欲の向上を図っています。昨年11月に、2年間の研究成果を発表しました。

### 言語活動の充実

言語活動を充実するため、各学校では、児童・生徒が調べたこと、考えたことを分かりやすく発表する授業や、疑問に思ったことに対して自ら解決方法を考え、結果を導き出す授業に努めています。

また、資料を読み取り、考えたことを説明するほか、自分の意見をまとめた上で意見交換の場面を設定するなど、言語活動の充実を図っています。

◀▲6年生の道徳の授業では、資料を読み、「友を思う心（信頼・友情）」について、本当の友情とは何か、友情を深めていくにはどう行動したらよいかを考えました。（落合小学校）

▲3年生の美術の授業では、実物大の「ゲルニカ」（パブロ・ピカソ作）を鑑賞し、作品を体で感じた後、作者の気持ちやねらいをグループで話し合いました。（北の台中学校）

## 子どもたち一人一人の成長を目指して

▲23年度から小学校高学年の外国語活動が必修になり、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指し、ＡＬＴ（外国語指導助手）とともに外国語活動を行っています。（寺尾小学校）

▲他校児童との交流と将来の自立を促すことを目的に、小学校特別支援学級の児童を対象に1泊2日の合同宿泊学習を行っています。昨年10月には、「愛川ふれあいの村」（愛川町半原）で行われ、4年生以上の児童が参加しました。（全小学校）

▲心の教育推進事業の一環として、市内の教員と地域、保護者に向けて毎年授業公開を実施しています。昨年10月21日に綾北小学校、11月15日に綾北中学校、今年1月29日には綾西小学校で行いました。（写真は綾北中学校のもの）



## よりよい学級集団づくりに向けて

問教育研究所☎70・5659

### 学級集団アセスメント

子どもたちの学びの質を高めるには、よりよい環境の中で学習することが大切です。いじめや不登校などの防止も重要です。

そこで、本市では、学級における子どもの満足度や意欲、集団や個人の状態を把握するため、アンケート方式の学級集団アセスメントを実施しています。同アセスメントとは、個々の児童・生徒の実態や学級集団の状況を客観的に評価することです。

対象は、小学5・6年生と中学1・2年生の全学級で、アンケートは年2回、5月と1月に行います。

学校では教師の観察に加え、年2回の客観的なデータを基に変容を確認し、学級経営の改善を図っています。

また、このアンケートで見えてきた学級集団や子どもの内面の状況から、いじめや不登校の防止に取り組んでいます。

昨年度3月に担任に実施したアンケートによると、2回目の学級集団アセスメントを実施後、1回目の結果と比較して改善が見られたクラスは小学校で52％、中学校で32％でした。

今後も、子どもたちが安心して生き生きと学習や生活ができるよう、学級集団アセスメントの結果に基づき、課題を改善する取り組みを進めます。

### ソーシャルスキルトレーニング

よりよい学級集団づくりのための具体策の一つとして、学校ではソーシャルスキルトレーニングを実施しています。

ソーシャルスキルとは、対人関係を営む知識と技術のことです。

ソーシャルスキルは持って生まれたものではなく、学習によって向上するものと考えられています。

本市では、小・中学校の教職員が教育研究所の研究員となり、学級集団アセスメントの分析とソーシャルスキルトレーニングプログラムの開発について研究しています。

研究員が開発したプログラムは、「ソーシャルスキルトレーニングプログラム集」として全校に送付され、子どもたちの学校生活の基盤となる学級づくりのために、各学校で活用されています。

▲プログラム集

## 土曜まなび場事業

問学校教育課☎70・5654

子どもの学習意欲を育て、家庭学習の習慣化を図るため、24年8月から「土曜まなび場事業」を実施しています。

まなび場は小学生が対象で、原則第1・3土曜日の午前中に地区センターなどを学習の場として無料で提供しています。

まなび場では、学習する教科を特定せず、教材は本人が持参し、分からないところを教員経験者とボランティアが支援しています。

自分のやりたい勉強が思いどおりにできたり、友達と一緒に勉強できたりすることが、児童の達成感や参加意欲につながっています。

何を学習したらよいか迷っている児童には、一緒に考えて学習の糸口を見つけてあげます。

まなび場では、国語と算数のプリントを用意し、予定した学習が早く終わった児童が取り組んでいます。

また、月に1回は「読書タイム」を組み入れているほか、工作や実験、音楽、落語などの体験的な活動も年に2回程度実施しており、児童も楽しみにして参加しています。

今年度のまなび場の会場は、中村地区センター、南部ふれあい会館、寺尾いずみ会館と北の台地区センターの4カ所ですが、来年度は6会場に増やして、全ての小学校の児童を対象にして実施する予定です。

## 学校ICTでさらに分かる授業を

問教育総務課☎70・5649、教育指導課☎70・5660

ICT（情報通信技術）を教科指導で活用した授業を行うと学力が向上するという調査結果があります。本市でも、急速な情報化に対応しながら、学校教育でICTを活用した取り組みを行っています。

まず、事務処理や教材研究の能率を上げて子どもに向き合う時間を増やすため、教員1人につきノートパソコン1台の配備と校内LANを整備しました。その後、普通教室に天吊り型のプロジェクターを設置し、さらにデジタル教科書や実物投影機を導入しています。

こうしたことで、ノートパソコン、プロジェクターの大型画面とデジタル教科書などを活用した視覚に訴える授業や、実物投影機を使って子どもの意見発表資料や教材・教具を大きな画面に映し出し、全員が画面を見ながら意見交換をしたり、学習内容をきちんと理解したりすることのできる授業などが行えるようになりました。

このような授業は、子どもたちの興味や関心を引き出して学習に集中させることができ、何を学ぶのかがよりはっきり分かるので、学習意欲が高まるとともに、学習内容を理解するのに役立っています。

ICTの活用は、手段であって授業の目的ではありません。教員がICTを効果的に活用し、児童・生徒が学力を身に付けることが目的です。授業の全ての場面でICTを使うのではなく、授業の導入や学習課題の提示、まとめの段階など場面を絞って活用を考えたり、中心となる学習活動のねらいや内容を考えて活用したりすることが大切です。

こうした点を十分考えながら、子どもたちに分かりやすい授業を支援するため、ICT環境の整備を進めていきます。

## 実践していますか　あやせゼロの日運動

問生涯学習課☎70・5658

### 毎月10日・20日・30日は家庭読書の日　ノーテレビ・ノーゲームデー

市内保育園、幼稚園、小・中学校、PTAと協力し合って「あやせゼロの日運動」を愛称とした「家庭読書の日、ノーテレビ・ノーゲームデー運動」を全市的な取り組みとして展開しています。

この運動は、子どもの成長を目指して健康的な生活習慣を定着させ、豊かな心を育成するため、毎月10日・20日・30日のゼロの付く日は、テレビやゲームを一休みし、家庭での読書、家族の会話やふれあいなど、家族の時間を充実させることを目的とした取り組みです。「家族で読書」「家族とお話」「家のお手伝い」など、多くの家庭で実践されています。

運動を通じて、読書や家族の時間の大切さを改めて考えてみてはいかがでしょうか。

▲家庭読書の様子

▲啓発用のぼり旗